

平成 29 年度 第 1 回 伊勢市障害者施策推進協議会 議事録

開催日時 平成 29 年 6 月 15 日 (木) 午後 7 時 00 分～  
開催場所 御菌公民館 講堂  
出席委員 宮崎 吉博委員、中谷 大介委員、山路 克文委員、市川 知律委員、杉田 宏委員  
倉野 直紀委員、小林 えり子委員、畠中 節夫委員、川合 正良委員、鈴木 弘之委員  
三宅 浩委員、溝井 力委員、金子 直由委員、前田 泉委員、伊豆 敏委員  
倉本 啓二委員、岩崎 良文委員、中川 肇委員、西 勝美委員、中川 悦子委員  
竹田 秀成委員、藤田 典子委員  
事務局 市長、健康福祉部長、次長  
高齢・障がい福祉課障がい福祉係長、他 2 名  
こども発達支援室長  
学校教育課 1 名  
傍聴者 4 名

1 委嘱状交付

市長より各委員へ交付

2 あいさつ

市長よりあいさつ

各委員より一言ずつ自己紹介

事務局紹介

3 伊勢市障害者施策推進協議会会長・副会長の選出について

会長 ⇒ 宮崎 吉博委員

副会長 ⇒ 市川 知律委員 に決定

○宮崎会長あいさつ

伊勢市の障がい者の暮らしに役立つような施策が立案できるような協議会にしていきたい。昨年度までにいろいろな制度や条例が整備させてきたが、障がい者の暮らしを考えるとまだまだ心もとないとも感じている。障がい者の暮らしぶり・生活の実態を軸に何が足りないのか、何が必要なのか考えていきたい。

○市川副会長あいさつ

今後、地域生活支援拠点等の整備もある。コミュニティーワークの重要性がクローズアップされてきている。障がい者が安心して地域で暮らせるまち作り、それは全ての伊勢の住民の皆さんが安心して暮らせるまち作りになると思う。これからしっかり進めていけるようにしていきたい。

4 伊勢市障害者施策推進協議会について

○事務局より、伊勢市障害者施策推進協議会について説明。

昨年度までは、各関係機関が相互の連携を図ることにより、地域における障がい者等へ

の支援体制に関する課題について情報を共有し、連携の緊密化を図ると共に、地域の実情に応じた支援体制の整備などを図ることを目的とした「伊勢市地域自立支援協議会」を設置していた。また、伊勢市手話言語条例に関する施策については、手話の施策促進、及び普及を図るための「伊勢市手話言語条例施策推進会議」、手話通訳者と要約筆記者の派遣事業の運営などを審議する場としては「手話通訳者派遣事業運営委員会」、「要約筆記通訳者派遣事業運営委員会」を設置していたが、今年度からはそれら既存の機関を統合し、かつ障害者差別解消地域支援協議会の機能をつけ、障がい者施策の総合的かつ計画的な推進についての調査審議等を行う場として、「伊勢市障害者施策推進協議会」を設置した。

協議会の所掌事務は、

「障害者計画及び障害福祉計画の策定に関すること」

「障害者施策の総合的かつ計画的な推進に関すること」

「地域における障がい者等への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関など関係者の連携の緊密化を図ると共に地域の実情に応じた体制の整備について協議を行うこと」

「障害者差別解消法に基づく障害者差別解消支援地域協議会に関すること」など。

「臨時委員」については、本協議会で何か特別な事項を調査審議する必要がある、臨時委員が必要と認められる場合は、臨時委員を置くことができるとしている。

また、本協議会の下には、「部会」を設置できることとしており、部会では会長が指名した委員及び臨時委員により専門的な協議を行っていく。

#### 【各委員主な意見】

- ・自立支援協議会は無くなったのか。

⇒自立支援協議会は廃止とし、障害者施策推進協議会にて協議等をお願いする。

#### 5 部会について

○事務局より部会について説明。

「自立支援部会」と「手話言語等コミュニケーション推進部会」の設置を提案したい。自立支援部会は、地域における支援体制の整備状況や課題、ニーズ等の把握を行い、必要に応じて各プロジェクトチームの立ち上げの検討及び協議の調整を行うと共に、第5期障害福祉計画策定に向けて協議を行う部会である。手話言語等コミュニケーション推進部会は、手話通訳者や要約筆記通訳者の派遣事業を円滑に進めるにあたっての課題の解決や研修の企画、また手話言語条例に基づいて実施する各種施策についての意見をいただくなど、広く聴覚障がい者関連の事業や施策について協議いただく部会である。

この2つの部会設置についての承認をいただきたい。また、承認いただける場合は、会長にて、部会委員の指名をお願いしたい。

⇒部会設置承認

会長より、自立支援部会に「市川副会長」、手話言語等コミュニケーション推進部会に「倉野委員」を本協議会代表として指名あり。他の委員は地域の関係者より適任者を指名となる。

⇒臨時委員承認

臨時委員は部会のための委員であるため、会長より指名とする。

## 6 第5期障害福祉計画について

○事務局より第5期障害福祉計画のスケジュール等について説明。

現在、伊勢市では障害者計画及び第4期障害福祉計画を基に障がい者施策の推進を行っているが、第4期障害福祉計画は、平成27年度から平成29年度までの計画であるため、今年度、新たに第5期障害福祉計画の策定を進めている。

アンケート調査については、平成29年6月23日発送に向け準備を行っており、アンケート対象者は、「2,000名」を予定。無作為抽出となる。

今後の予定は、アンケート調査の結果及び障害者団体や事業所へのヒアリングを行い、毎月開催予定の自立支援部会にて協議を行ったのち、秋には「素案」を作成する。秋開催予定の本協議会にて、障害福祉計画素案について協議を行い、12月ごろにパブリックコメントを実施する予定となっている。その後は、最終案の作成を行い、冬に開催予定の本協議会にて協議・承認をいただいたのち、確定し、印刷を予定。3月末までに完成予定である。

### 【各委員主な意見】

- ・本人が答えられなくて代理者が答えた時に代弁にならないときがある。その時の弊害を調査票でどう表記していくのか。前回計画のアンケートでも迷った。調査で客観的に反映できる工夫が必要。要望としてなので回答は不要。慎重にお願いしたい。
- ・調査で補えない部分はヒアリングで意をくんでもらうようにお願いしたい。
- ・回答例だが、自身で判断できない、意思が把握できない場合は、「答えることができない」とチェックが入るなどのマニュアルや回答例は無いのか  
⇒文を入れるなどの何かの形で検討する。
- ・文字の大きさ及び視覚障がい者へはどうか配慮しているのか。  
⇒A4サイズでの印刷となる。視覚障がい者へは個別で対応させていただくなど意見を反映できるように配慮していきたい。
- ・「わが子が答えるなら」という目線で拝見したが、1枚目の左下の「日常生活について」の「将来どこでくらしたいですか」の質問はすごく重要と思うが、回答項目内に「わからない」がない。その他に「分からない」と記入するのかなと思うが、「分からない」という言葉を使っていいという文言の文を1枚入れて欲しい。また2ページ目の「保健医療について」「通院を1つ選んで○」がどうなのか、いろいろと通院するケースがある。1つに限定していいのかなと思う。  
⇒検討する
- ・サンプルの抽出方法の数はこれでいいのか。  
⇒全体的な割合から件数を決めている。
- ・以前の計画時にも似たような質問が出てきたのでアンケート質問書を変えている。前のアンケートは確認しているのか。文言を入れ替えているはず。基本問題なので慌てず障がいのある方の立場で再検討するべき。もう一度精査したほうがいいのでは。  
⇒前回アンケートは確認済みであるが、再度事務局で精査する。  
委員からファックスで意見をもらえればと思う。  
⇒変更後は会長・副会長一任とする。
- ・このアンケートは委員会が出すのか市が出すのか。どの間がいいという正解は無いと思う。

この委員会で出すなら委員会で精査すべきだが、市で出すなら市で精査すればいいと思う。  
⇒市で出すものである。

- ・精神障がいの方がちゃんと入っているかが気になる。  
⇒入っている。

## 7 その他

○事務局より二見デイサービスセンターと御菌デイサービスセンターの進捗状況報告。

二見デイについては、無償譲渡し短期入所と生活介護の施設を1月に開所してもらう予定であったが、10月開所が進んでいる。御菌デイについては、指定管理にて障がい児の機能訓練等ができるおひさま児童園を9月1日開所に向け準備を進めている。

○事務局より障がい者サポーター制度について報告。

サポーター登録者数は568名、サポート企業団体は21企業団体となっている。

9月2日に障がい者サポーター研修会を予定している。

○事務局よりこども発達支援室について報告。

4月から保健師・教員・保育士を配置し対応している。